



特集

学び舎から、対馬の未来をひらく拠点へ

かつて、子どもたちの声が響いた校舎は、地域の歴史や思い出が詰まった大切な資産です。
少子化に伴い閉校を迎えた施設を、単なる「過去の遺産」で終わらせるのではなく、新しい賑わいや雇用の場、住民交流の拠点として再生する取り組みが始まっています。

対馬市が目指す 廃校利活用の３つの未来

1 地域を守る

住民集会や防災拠点など、地域の安心とコミュニティの核としての機能を継承します。



2 新たな産業を生む

サテライトオフィスや作業場、商業施設などへの活用により、地域経済を活性化します。



3 人が行き交う拠点づくり

体験学習や観光・文化活動の場として、市内外の多世代がつながる交流を促進します。





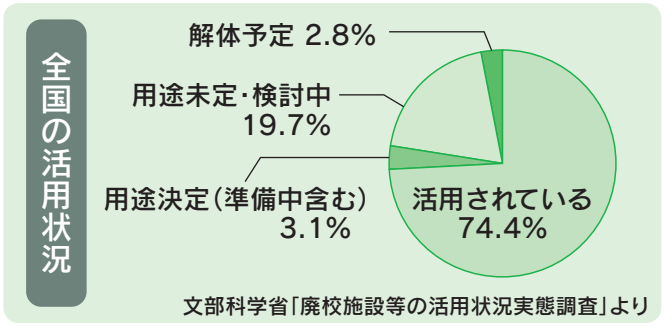


全国で進む廃校の活用

少子化に伴う児童生徒数の減少は、対馬市だけでなく日本全体で起こっており、全国では毎年約450校が廃校となっています。

廃校施設は地域にとって貴重な財産であることから、地域の実情やニーズを踏まえながら有効活用していくことが求められています。

国では、廃校舎の利活用を進めるため、文部科学省が全国の情報を発信する取り組みやイベントなどを通して、農林水産省が地域の一次産業と廃校舎を結びつける支援などを行っています。



文部科学省「廃校施設等の活用状況実態調査」より



小学校跡をお菓子工場と店舗として活用（北海道長万部町）

対馬市内における現状と今後の取り組み

対馬市では少子化の影響を受け、島内に多くの廃校舎が点在しています。閉校後の校舎やグラウンドは、これまでも地域の人たちの活動の場として、また、災害時の避難拠点として運用されてきました。しかし、高齢化や人口減少も重なり、校舎の利活用が進まず市による維持管理が続くなか、その有効活用が課題となっていました。

そこで、平成26年に対馬市廃校施設利活用に関する基本方針をまとめ、地域や公的機関が使用しない場合、公募により民間事業者なども利活用ができるようにしました。

公募による廃校舎利用の流れ

STEP１ 事前相談（現地視察など）

STEP２ 利活用申請

事業計画書･収支予算書などの必要書類を市へ提出

STEP３ 審査・選定

【審査基準】
- 産業振興・雇用創出
- 社会福祉の向上
- 地域社会への貢献
- その他地域の活性化

STEP４ 国や市議会の手続き

財産処分や条例改正の手続き

STEP５ 貸付契約締結・事業スタート
（原則年2回 4月1日 または 10月1日）

★支援制度：廃校施設貸付料3年間無償

5つの廃校施設を活用中

現在、旧舟志小、旧佐護小、旧阿連小、旧佐須中、旧大調小を民間企業や団体が利用しています。それに加え、現在、旧南陽中・旧南小の利活用者を募集しています。



旧南陽中学校



旧南小学校

問い合わせ
政策企画課　☎0920(53)6205

旧佐須中学校　誰もが自分らしくいられる居場所へ

子どもたちが安心できる場所を作りたい

4年前に閉校した旧佐須中学校では、児童発達支援や放課後等デイサービスを行う施設「対馬ひまわり学習館」が開設されています。

中心となって運営しているのは、対馬出身で児童相談所や医療機関などで福祉と関わってきた、社会福祉士の満山美芳さん。対馬へ帰郷することを機に、親交があった学校法人神村学園の神村元理事長の提案を受け施設開設を決意、利用者の受け入れや緊急時の対応などを考え、旧佐須中学校を活用して施設を作ることになりました。



地区の人たちが植えてくれたひまわりが学校を彩っている



学校でも家庭でもない、第三の居場所に

当初、障がいを持つ子どもから大人までが利用できるよう、地域と協力して働く場所の提供や共同生活を送るグループホームも同時に作る予定でしたが、島内で発達障がいなどでサポートが必要な子どもたちの居場所となる施設が足りていないとの声を受け、先行して開設することとなりました。現在小学校に入る前の子どもたちに対する発達訓練や、放課後や長期休みのデイサービスを行っています。

地域の中にある学校だからできる学びを



JEC対馬株式会社
施設管理者　満山 美芳さん

ここに来る子どもたちは、自分の思いをうまく伝えることが苦手で、その結果、急に怒ったり走り回ったりしてしまうので、集団生活の中で居場所を失っている子どもたちです。この学習館では、そういう子たちに「ここにきて楽しかった！」と思って帰ってもらうことを1番に考えています。家庭でも学校でもない居場所をつくった上で、どうすれば社会での生きづらさを減らすことができるのかを、子どもたちと一緒になって考え、訓練を行っています。

そういった社会性を育てる場所として、学校を利用することは大きなメリットがあります。地域の人たちが進んで関わりを持ってくださり、周辺の環境整備や地域での声かけなどを行ってくれ、子どもたちも、地域の一員としての結びつきを持つことにつながっています。今後も、地域との交流を進めながら、対馬に住む全ての人たちが、障がいの有無にかかわらず、住み慣れた環境の中でいきいきと過ごしていけるような社会になるように活動を行っていきます。

廃校舎を活用したイベントが開催されます!

海ごみからまなび、未来をつくる

Ocean Good Fes.

Ocean Good Fes.

と　き　11月8日（日）10:00～17:00
（開場9:30／雨天決行）

ところ　旧阿連小学校（駐車場完備）

詳細はこちら

問い合わせ　Ocean Good Fes.実行委員会（SDGs戦略課）　☎0920(53)6221

入場無料　旧阿連小学校が

遊ぶ・鳴らす

自分で作った海ごみ楽器でプロ（KURAGE Band）と大合奏！
体育館に巨大ふわふわ遊具が登場！

の校舎の事例を紹介します

旧阿連小学校　対馬を知ることができる学び舎へ

対馬らしさが凝縮された学校



10年前に閉校した旧阿連小学校は、対馬産の木材をふんだんに使用した作りで、対馬の自然の恵みを身近に感じることができます。ここで島内外の人たちに対馬のことを知ってもらおうと活動しているのが、海ごみ問題に取り組む一般社団法人「対馬CAPPA」です。海ごみの現状を知ろうと、国内外から多くの人たちが訪れるようになった対馬で、海岸清掃ボランティアや視察の受け入れ、シーカヤックなどを活用し、対馬の自然を学ぶツアーなど「旅と学び」を組み合わせた活動も行っています。旧阿連小学校では、海ごみの現状や処理の様子などの展示をしたり、海ごみに関するワークショップを行ったりする場所として活用を始めました。

地域の学校への思いや流れてきた時間も学ぶ材料にしたい



海岸清掃など屋外での活動にとって、天気は大きな影響を及ぼします。遠くから対馬に来ても、天候が悪く、思うように活動ができないということもしばしばあります。そんな時に広い屋内空間をもつ校舎はもってこいの場所。天候を気にせず海ごみや海について情報発信ができることはとてもありがたいと、代表の上野芳喜さんは話します。また、海ごみのことだけでなく、自然とともに豊かな暮らしをしてきた対馬の人たちの話をしていきたいと考えています。阿連地区の人が、この学び舎に寄せた思いや、閉校に至る歴史など、学校から伝わって来る情報も学びの材料として、伝えられたらと思っています。

対馬を訪れた人が、次の行動に移せるエネルギーを

地球規模の問題となった海ごみについて、その最前線となった対馬に、いま大勢の人たちがやってきています。海岸をみたり、実際に清掃ボランティアを行って海ごみについて知ってもらうことはできているのですが、大切なのは、その人たちが日常の生活に戻った後に何をしていくかだと思うのです。私は、その情報に、対馬の美しさや、対馬の自然とともに暮らしてきた対馬の人たちのことや思いを織り交ぜることで、次の行動に移すエネルギーになると思っています。対馬にきた人たちが、日常の便利な生活に戻り、ペットボトルの飲み物を飲む時に対馬を思い出してもらえるような、エネルギー溢れる体験を提供したいと思っています。地域の人が愛し育んできた学び舎で、海と島の環境学校を目指します。



対馬CAPPA
代表理事　上野 芳喜さん

1日限りの“海のあそび場”に変身!?　～作って、感じて、遊びつくす創造教育フェス～

食べる・買う

スイーツから韓国料理など人気店の美味が集結！対馬の新鮮な魚が激安価格で買える「鮮魚直売所」も！

作る・学ぶ

万博で好評のミニ祠（ほこら）づくり&アップサイクルキーホルダー工作！
漁師直伝！「魚の捌き方教室」も！

